第６３５号　　JR 東日本労働組合横浜地方本部　２０２６年２月２５日

東日本ユニオン よこはま

ＪＲ東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/小清水和彦

申第３号「ＪＲ東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する解明申し入れの団体交渉を開催する！（その２）

横浜地本は、2月 12 日に地方提案「JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」に関する解明申し入れの団体交渉を行いました。

2. 事業本部のコンセプトについて

(1)横浜支社における事業本部のコンセプトに「『融合と連携を加速する』これまで以上のスピード感で地域密着の事業運営を行う。」としているが、どのように現行と変わるのか明らかにすること。

回答：第一線の職場と企画部門が融合し、よりきめ細やかで小回りの利く「事業本部」による運営に変えていくことで、今まで以上に地域に密着し、お客さまのニーズに合わせた施策をスピーディーに実践していく。

組合：今現在もかなりのスピードで融合と連携の施策が進められているが、今後更に進めていくのか。
会社：一部の社員が担うべきものではなく、成長をして行くためには多くの社員が担ってもらう。また企画部門の人が第一線の現場に入ることにより、地域の活性化や課題解決がスピードアップしていく。

3. 事業本部のエリアについて

(1)提案資料の事業本部エリアマップにおいて、各事業本部内の駅が色で区分けされている意味を明らかにすること。

回答：川崎事業本部、横浜事業本部、湘南伊豆事業本部の「事業本部のエリア」をわかりやすく表したものである

組合：事業本部のエリアマップが、細かく色分けがされているのには何か理由があるのか。
会社：JESS との関わり合いもある。どちらかというと色を見ていただきたい。管理エリアごとに見やすいように表記した。

4. 事業本部の体制について

(1)各事業本部内にある各職場の1日当りの出面数（作業ダイヤ数）を明らかにすること。

回答：柔軟な働き方の推進の趣旨を踏まえ、業務量については、年間を通した平均的な業務量の基準として、事業本部毎に1日当たりの出面数を示すこととなる。

組合：一事業本部が一職場と示されたが、各職場の 1 日あたりの出面数を明らかにして、社員が安心して企画業務等を進められるように明確にすべきではないのか。
会社：統括センターから一事業本部に変わったとしても、必要な出面数は示している。
組合：統括センターでは別の職場の人がサポートし合って一つの職場として成り立ってきた。しかし現実には人がいない。明確に1日の出面数を示していくべきである。
会社：1日当たりの出面数は可変するということはこの間も話をしてきた。

組合：箇所という大きな括りの中で人数だけを示されただけでは、本当に業務量が足りているのかわからない。明確に１日の出面数を示すべきだ。
会社：（口頭にて出面数が示される）

（2）横浜事業本部における関係事業本部のサポート業務等とは、なにか明らかにすること。

回答：川崎事業本部、湘南伊豆事業本部においては事業推進部に業務を配置することとなるが、必要により横浜事業本部がサポートをすることで業務を推進していく。

組合：各事業本部相互間は並列関係であるが、横浜事業本部が場合によってはサポートするということか。
会社：効率的に業務を推進するために、サポートすることはある。各事業本部の中で判断実行できることには変わりない。

（3）従来の異動や担務変更を含め、全てを「業務内容変更」とした理由を明らかにすること。
※申第2号で議論

（4）本体エルダー社員と出向しているエルダー社員は、どこの所属になるのか明らかにすること。

回答：本体エルダー社員は各事業本部に所属することとなる。なお、現行の横浜支社に所属し、出向しているエルダー社員については横浜事業本部の所属となる。

組合：横浜支社から支社外に出向しているエルダー社員は、どの事業本部の所属になるのか。
会社：グループ会社に出向している人は横浜事業本部。各事業本部の各統括センターの中にいる人は、その事業本部となる。支社外に出向している人も横浜事業本部になる。

5. 事業本部における新たな働き方

（1）駅の泊まり勤務において、遅フレ・早フレ等を組み合わせて一つの勤務とすることはあるのか明らかにすること。

回答：勤務については、就業規則等に則り取り扱うこととなる。なお、複数のフレックスパターンを組み合わせて運用していくことを検討している。

組合：地方ではフレックスが始まっているが、横浜にも同じようなものが波及していくのか。

会社：地方とは違い、横浜の場合は現行ある作業ダイヤを生かしたまま、フレックスの人が必要な時間だけ働いて、そこを埋めるというイメージになる。

（2）フレックスタイム制適用社員の JINJRE（勤務）上、勤務表記はどのように示されるのか明らかにすること。

回答：指定されたフレックスパターンが表記されることとなる。

組合：勤務の発表時に、企画部門の人の氏名は勤務表に明記されるのか。
会社：フレックスのパターンの名称が分かるような表記で明記していく。
組合：企画部門の人が、別の会議等で指定された作業ダイヤを欠務にならないように、責任を明確にしていくべきだ。
会社：会社としてもそれは危惧している。他がいるからではなく、指定された業務は責任を持つことを意識するようにしていく。

疑問・不安をなくし、
働きやすい施策をつくりだしていこう!!